

## I 学校の概要

### 学習意欲向上モデル校事業 観音寺市立常磐小学校

#### ◆児童数及び教員数

○児童数

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	特別支援	全校
2学級 68名	2学級 53名	2学級 70名	2学級 69名	2学級 80名	2学級 52名	2学級 9名	14学級 401名

○教員数 25名

#### ◆学校の特徴

常磐地区は、観音寺市の市街地東部の田園地帯に位置する。H18に、イエロー隊（学校等運営協力会）が結成され、子どもの安心・安全、学校行事・授業等への支援体制が充実している。子どもを地域で見守り育てようとする気運も高い。香川西部養護学校との交流を30年以上続けており、交流活動をとおして障害のある方に対する理解が深まったり、相手の気持ちを考え、ともに歩む気風が伝統的に育っている。

教育理念には、「温かさ」と「つながり」のある教育を掲げ、児童会活動やペア活動等を通して、明るく楽しい学校を目指した取り組みを多く実施している。また、昨年度、市指定の人権・同和教育の指定を受け、自己有用感を高めるために、「自分は役に立っている」という気持ちをもたせるよう、「場づくりと対話づくり」を大切に、「共感力」をはぐくむ集団づくりに向けて実践を重ねてきた。

## II 研究主題等

研究主題

**基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、問いを追究する子どもの育成  
～自己有用感を高め、学習の意欲化を図る授業づくり～**

#### ◆研究主題設定の理由

本校の児童の多くは、与えられた課題に対しては真面目に取り組み、解決しようと努力できる。一方で、自ら課題を出したり解決方法を考えて主体的に追求したりしようとする態度や、自分の考えをのびのびと表現し、主体的に学ぶ姿勢には課題がみられる。

本校はこれまでに、児童の確かな学力を育成するため、基礎的・基本的な知識や技能を着実に習得させるとともに、追求意欲を高める授業改善を推進し、平成28年度学習状況調査に向上が見られるなど、一定の成果が得られた。しかし、基礎的・基本的な知識や技能の習得については、2極化や低位層の固定化が生じるなど児童に新たな課題も見られる。

これら児童に見られる課題の背景には、自分に自信がもてなかったり、自分が所属する集団と相互に高め合う関係が結びにくかったりするために、授業に参加する意欲を高められない児童が少なくない現状があると考えられる。

そこで本年度は、授業づくりの中で、友だちとの関わりを通して、自分の成長を実感できる場や評価を工夫することで、特に自己有用感を高めたいと考えた。「役に立った。認められた。活躍できた。」という児童の自己有用感は、学習に対する意欲を高め、そのことが、基礎・基本的な知識と技能を身に付け、問いを追求する児童の育成に資すると考え、本研究主題を設定した。

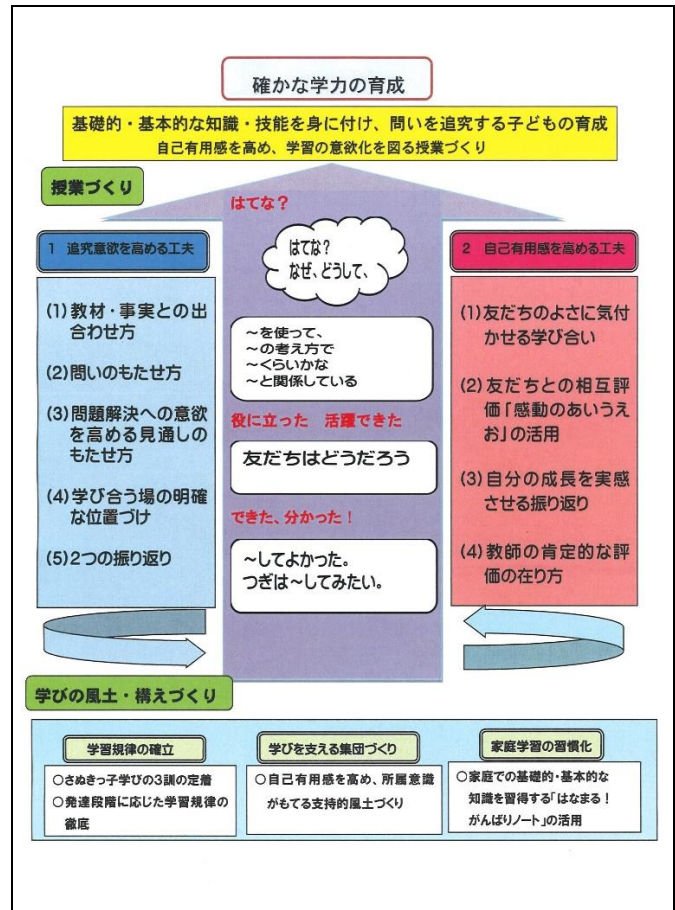
◆研究内容及び方法

授業づくり

- 1 追究意欲を高める工夫
  - (1) 教材・事実との出合わせ方
  - (2) 問いのもたせ方
  - (3) 問題解決への意欲を高める見通しのもたせ方
  - (4) 学び合う場の明確な位置づけ
  - (5) 2つの振り返り
  
- 2 自己有用感を高める工夫
  - (1) 友だちのよさに気付かせる学び合い
  - (2) 友だちとの相互評価「感動のあいうえお」の活用
  - (3) 自分の成長を実感させる振り返り
  - (4) 教師の肯定的な評価の在り方

学びの風土・構えづくり

- 1 学習規律の確立
- 2 学びを支える集団づくり
- 3 家庭学習の習慣化



III 成果の評価計画 (検証方法)

- (1) 研究成果の参考とする10の指標  
学習意欲に関する質問項目を指標として、県平均や前年度の本校の結果等と比較する。
- (2) 学習状況調査 (教科に関する調査)  
学習状況調査の調査結果について、調査内容別及び観点別平均正答率の状況、個別の学習状況を把握するとともに、県平均や前年度の本校の結果と比較する。
- (3) 授業力向上の評価  
授業改善の視点を明確にし、評価項目を設定したうえで、教員による相互評価や指導主事等による指導・助言を通して、授業力の向上を確かめる。

IV 研究成果の普及方法

- (1) 研究授業を公開し、授業の討議会で研究内容と成果について説明し、研究についてのご意見やご感想をいただき、改善を図る。
- (2) 学校・学年だより等で取り組みの概要や成果について発信し、保護者に協力を得る。